

平成 23 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 前田 泰宏

最終学歴	関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程心理学専攻修了	
取得学位	文学修士	
所属学会	日本心理臨床学会、日本心理学会、日本ブリーフサイコセラピー学会、日本行動療法学会、日本認知療法学会、日本トラウマティックストレス学会、他	
専門分野	臨床心理学、心理療法（統合・折衷）	
研究課題	心理療法における学派を超えて共通に存在する治癒(効果)要因と治療プロセスの探索、不安・抑うつ の臨床心理学的研究	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学演習Ⅰ（前期） ・臨床心理学演習Ⅲ（前期） ・臨床心理学応用実習Ⅰ（前期） ・心理病理学（前期） ・臨床心理学演習Ⅱ（後期） ・臨床心理学演習Ⅳ（後期） ・臨床心理学概論（後期） ・カウンセリング実習（後期）
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理実習（通年：共同） ・臨床心理学特論（通年：共同） ・社会臨床心理学演習Ⅰ（通年） ・臨床心理学面接特論（通年：共同） ・臨床心理査定演習（通年：共同） ・投映法特論（前期）
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学（スクーリング科目） ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	<p>関西折衷的心理療法研究会（平成22年4月設立）において共同研究者数名（臨床心理士）と共に、統合・折衷的心理療法に関する実践教育と研究を行っている。平成23年度は計2回のシンポジウムを企画し開催した。Bill O'hanlon著“Quick Steps to Resolving Trauma”の監訳作業を行う。平成24年夏頃、金剛出版より刊行予定。</p>	
【教育上の特記事項】	<p>担当講義科目においては、毎回授業アンケートを実施し、教員側の授業の振り返りと学生の授業内容の理解の状況について把握するための一助とした。大学院臨床心理学コース修了生に対する実践教育支援（臨床心理クリニックケースカンファレンス）を、臨床心理学コース教員及びクリニック相談員と共同で行った。</p>	
【社会的活動】	<p>ブリーフセラピー・ネットワークジャパン理事（1998年度～）、大学院連合メンタルヘルスセンター理事（2011年度～）、大阪府臨床心理士会医療関係部会運営委員（2005年度～）、奈良県スクールカウンセリングカウンセラー（2008年度～）、奈良いのちの電話相談員養成講座講師（2009年度～）、関西折衷的心理療法研究会スタッフ、奈良大学保護者のつどい講演「鬱を理解し、和らげる」（2011.10.10.）、奈良大学臨床心理クリニック無料相談会「ストレスマネジメント講座」（2011.8.6.）</p>	
【学内活動】 （学内職歴を含む）	<p>社会学部長（2011年度～）、社会学研究科長（2006-2007年度、2011年度～）、臨床心理クリニック所長（2007-2010年度）、人事委員（2009-2010年度）、学生相談員（2004年度～）、地域連携教育研究センター運営委員（2007-2010年度）、他</p>	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
①心理療法実践の基礎としての共通要因アプローチ-より良い援助プロセスと実効性を目指して-	単	平成24年3月5日	奈良大学臨床心理クリニック紀要. 第4号、10-16.	心理療法実践の基礎として共通要因アプローチがどのように役立つのかを、「見立て」「治療関係」「技法的介入」の各プロセスの沿って論じた。
(学会発表)				
①自主シンポジウム：統合・折衷的心理療法の展開（3）より有効な介入と技法-共通要因アプローチの立場から	単	平成23年9月2日	日本心理臨床学会第30回大会発表論文集、688.（九州大学箱崎文系キャンパス）	統合・折衷的心理療法（共通要因アプローチ）の立場から、有効な治療的介入の工夫について自験事例を踏まえて論じた。（企画者及び話題提供者として）
②引きこもりの若者に対する集団認知行動療法の効果	共	平成23年9月30日	第11回日本認知療法学会抄録集、83.（大阪国際会議場）	引きこもりの若者に対する集団認知行動療法の実践上の工夫とその治療的効果について報告した。（連名発表者：山本大輔、小山秀之、前田泰宏）
③分科会：PTSDのより良い理解と有効な心理的援助を目指して	単	平成23年12月4日	第19回大阪府臨床心理士会ワークショップ分科会（大阪国際会議場）	PTSDの認知行動療法（エクスポージャー法）の実践事例に対して、共通治療要因の観点から、コメントした（企画者及びコメンテーターとして）
(その他) 講演、公的助言など				
①第2回折衷的心理療法シンポジウム-事例を通して折衷を考える	共同	2011年5月15日	主催：関西折衷的心理療法研究会（住友病院講堂）	当該シンポジウムの企画者及びグループファシリテーターとして。
②電話相談員へのグループスーパーヴィジョン	単	2011年5月18日	主催：奈良県立教育研究所	教育研究所の電話相談員ケース会議においてスーパーヴァイザーとして指導を行った。
③講義：人間関係の課題（3）地域-臨床心理的コミュニティ援助論を中心として	単	2010年7月3日	奈良いのちの電話「第35期電話相談員養成講座」（奈良いのちの電話協会）	臨床心理的地域（コミュニティ）援助の理論と実際について、コミュニティ心理学や・システムズアプローチの観点から講義した。
④講演：学校カウンセリングの基本	単	2011年8月18日	「10年経験者研修講座」（主催：奈良県立教育研究所）	小学校、中学校、高校の教員歴10年の教員に対して、講師として「学校カウンセリングの基本」に関する講義と実習を行った。